

## J ブルークレジット 審査認証委員会（第 1 回）

### 議事概要等

開催日時：令和 3 年（2021 年）1 月 29 日 15：00

開催方法：オンライン開催

委員：別紙 1 記載のとおり（委員 7 名中 6 名（池田委員、岡田委員、鈴木委員、堀委員、三戸委員、吉原委員）出席）

関係者：国土交通省 港湾局 海洋・環境課（4 名）、「地球温暖化防止に貢献するブルーカーボンの役割に関する検討会」事務局（1 名）、港湾空港技術研究所（3 名）

事務局：ジャパンブルーエコノミー技術研究組合（3 名）

#### 1. 議事要旨

- (1) 座長（委員長）として、委員の互選により鈴木委員が指名された。
- (2) 国土交通省（港湾局 海洋・環境課）から、クレジット試行の趣旨と概要につき説明がなされた。
- (3) 委員会事務局より、J ブルークレジットの審査認証の手続きに関し、説明がなされた。
- (4) 2021 年 1 月 19 日付「プロジェクト登録・クレジット申請書」[プロジェクト番号 202101JBCA00001]に基づく申請（その概要は、別紙 2 記載のとおり）につき審査がなされた。「現地検証結果報告」（2021 年 1 月 20 日 10:00 から実施。鈴木委員、三戸委員）を受け、審議検討の結果、申請を受けた J ブルークレジットの数量に認証率（保守的に見積もった算定率）を乗じた量の J ブルークレジットを認証されたい旨を決議した。

2. 以上の審議結果を受け、事務局において、上記申請について認証されるべき J ブルークレジットの数量を以下のとおり算出した。

$$\begin{aligned} & 50.8 \text{ [t-CO}_2\text{]} \quad (\text{申請を受けた J ブルークレジットの数量}) \\ & \times 90\% \quad (\text{活動量の不確実性 (低) に伴う認証率}) \\ & \times 50\% \quad (\text{吸収係数の不確実性 (高) に伴う認証率}) \\ & = \underline{22.86 \text{ [t-CO}_2\text{]}} : \text{認証されるべき J ブルークレジットの数量} \end{aligned}$$

別紙1（委員名簿等）

Ｊブルークレジット審査認証委員会委員

2021年1月29日現在（50音順）

池田 陸郎：カーボンフリーコンサルティング株式会社 取締役・国内事業本部長  
（専門分野：クレジット算定・検証・認証、オフセット制度等）

岡田 知也：国土交通省 国土技術政策総合研究所 海洋環境・危機管理研究室長  
（専門分野：沿岸環境、生態系サービス等）

佐々木 淳：東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授  
（専門分野：沿岸環境、環境再生等）

鈴木 健司：一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター  
センター長兼検証審査部長  
（専門分野：クレジット算定・検証・認証、オフセット制度等）

堀 正和：国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所  
水産資源研究センター 社会・生態系システム部 沿岸生態系グループ長  
（専門分野：浅海生態系、ブルーカーボン等）

三戸 勇吾：復建調査設計株式会社 東京支社 第一事業部 環境課長  
（専門分野：浅海生態系、生態系サービス等）

吉原 哲：八千代エンジニアリング株式会社 国内事業部 環境計画部 技術第二課長  
（専門分野：ブルーカーボン、オフセット制度等）

別紙2（審査認証の対象とする申請について）

(1) 2021年1月19日付申請 [プロジェクト番号 202101JBCA00001]

【申請内容の要点】

① 申請者（共同申請）

横浜市漁業協同組合

特定非営利活動法人海辺づくり研究会

金沢八景－東京湾アマモ場再生会議

② プロジェクトの名称等

「多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動」

※ その概要は、別添「プロジェクトの名称：多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動」記載のとおり。

③ プロジェクト実施期間

2016年3月18日～2017年3月17日

④ クレジット認証を受けようとする吸収・削減量

合計 50.8[t-CO<sub>2</sub>]（内訳：アマモ場 50.2[t-CO<sub>2</sub>]、アカモク場 0.6[t-CO<sub>2</sub>]

⑤ プロジェクトの種類等

種類：吸収

a. アマモ場

対象海域では2005年頃より、金沢八景-東京湾アマモ場再生会議、海辺づくり研究会等が三井アウトレットパーク、横浜ベイサイドマリーナの協力を得てアマモ場再生活動を実施していたが中々定着しなかった。

そのため、2013年から4年間は、東京湾 UMI プロジェクトによって民間企業と協働したアマモ場再生活動を実施した。この活動は、横浜市漁業協同組合が水産庁の水産多面的機能発揮対策交付金を活用した同海域でのアマモ場再生活動と連携したもので、活動の原資は、金沢八景-東京湾アマモ場再生会議、海辺づくり研究会の活動資金（一般会計と助成金）と、UMI プロジェクト参加企業の資機材に対する実費負担等である。2017年3月には図-1のとおりアマモ場が同海域一面に拡大した。

以上から、同海域のアマモはブルーカーボンクレジットの対象になると判断した。

b. アカモク場

関東地方整備局が平成 22 年度から 3 年間「横浜港海域環境改善監視等業務」において対象海域での藻場造成実験を実施した。現在対象海域で繁茂しているアカモクについては、実証実験以前にこの海域でアカモクは確認されておらず（漁業者談）、この取り組みの中で設置した種苗が拡散したものと判断できる。

また、令和 2 年度現在、横浜市漁業協同組合がこのアカモクを水揚げしているが、持続可能な生産を目指して間引き採取、種苗供給などの取組を行っている。

以上から、同海域のアカモクはブルーカーボンクレジットの対象になると判断した。

⑥ 方法論（概要）

i. 活動量

a. アマモ場

ドローンによる空撮写真画像（2017 年 3 月 17 日）による被度推定、潜水・水上からの目視による確認。

b. アカモク場

ドローンによる空撮写真画像（2017 年 3 月 17 日）による被度推定、潜水・水上等からの目視による確認。

ii. 吸収係数

a. アマモ場

[桑江ほか「浅海生態系における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」土木学会論文集 B2（海岸工学）2019 年 75 巻 1 号 10 頁以下](#)の表-4（15 頁）に記載されているアマモ場の吸収係数（4.9 t-CO<sub>2</sub>/ha/年）を用いた。

b. アカモク場

上掲論文の表-4（15 頁）に記載されているガラモ場の吸収係数（2.7 t-CO<sub>2</sub>/ha/年）を用いた。

# プロジェクトの名称：多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動

## ◆ プロジェクトの概要

国や自治体、市民団体、漁業者、企業など多様な主体が連携して取り組む「東京湾UMIプロジェクト」

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kyoku/59engan/umipro/umipro.htm>

平成25年度から横浜港の一角で「海のゆりかご」と呼ばれるアマモ場の再生に取り組んでいます。横浜ベイサイドマリーナ横の浅場で活動した結果、10haを超えるアマモ場が再生し、多様な生きものが棲む豊かな海辺となりました。

また、平成22～24年度に関東地整が行った藻場造成実験により、同海域の岩礁や消波ブロックにはアカモク場が形成されました。現在、横浜市漁協が種苗の供給を行いながら持続可能な形で水揚げし、横浜の新たな産品にもなっています。

## ◆ プロジェクトの特徴・PRポイント

首都圏の経済・社会活動を支える東京湾。

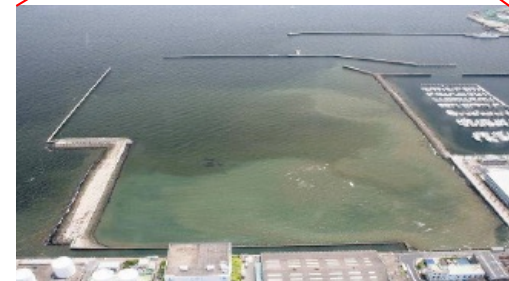
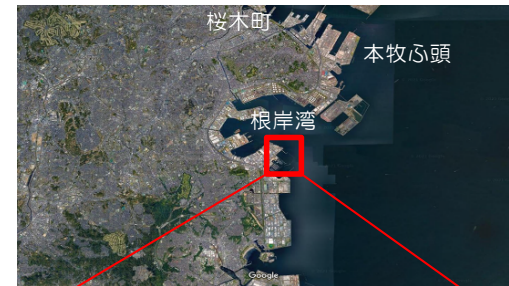
東京湾の豊かさを取り戻すためのアマモ場の再生活動や持続可能な漁業は、「生物多様性の向上」や「生物資源の増大」、

「食料生産」だけではなく、ブルーカーボンの拡大に寄与することで「地球温暖化の抑制」にも貢献します。

さらに、その活動を通して人々の海への理解や関心を高めることが可能です。

<http://www.amamo.org/>

<https://www.facebook.com/amamo8k>



## J ブルークレジット発行概要

2021年2月2日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合

理事長 桑江 朝比呂

当組合は、2021年1月29日開催のJブルークレジット審査認証委員会による意見を受け、同日、22.86[t-CO<sub>2</sub>]のJブルークレジットを認証し、このJブルークレジットを横浜市漁業協同組合（神奈川県横浜市金沢区柴町 397 番地）、特定非営利活動法人海辺づくり研究会（神奈川県横浜市西区平沼 2 丁目 4 番 22 号ジュネスササキ 202 号）及び金沢八景－東京湾アマモ場再生会議（神奈川県横浜市西区平沼 2 丁目 4 番 22 号ジュネスササキ 202 号）（三者共同保有）に対して、22.8[t-CO<sub>2</sub>]（0.1[t-CO<sub>2</sub>]未満端数切捨）のJブルークレジットを発行した。